

平成22年度緑地管理研究会の開催について

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成22年度緑地管理関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会の開催に先立ち、平成23年1月20日(木)にホテルラングウッドにて平成22年度緑地管理研究会が開催されました。

当協会では、水田畦畔、農道等の農耕地周辺や、道路路面、鉄道沿線などの場所を対象に、それぞれの管理目的に応じ、植生を根絶することなく雑草の伸長を長期間抑制する薬剤の開発、利用を図る目的で、平成4年度より抑草剤の試験研究に取り組んでおりますが、平成19年度からは、緑地管理分野における抑草剤を主体とした薬剤の効率的な利用を目的として、鉄道、高速道路、電力会社等ユーザー各社による現地実証試験が実施され、毎年研究会を開催しております。

今回の研究会には、鉄道、高速道路、電力会社等ユーザー関係者12名、試験場関係者16名、農薬会社等関係者86名ほか、計147名の参集が得られました。

以下に研究会の内容を簡単に紹介します。

- ・講演「農薬のドリフト低減散布技術について」
ー生物系特定産業技術研究支援センター農業機械化研究所 宮原佳彦：

我が国における農薬散布技術の現状、農薬散

布時に発生するドリフトとその防止、ドリフト低減散布技術の開発状況と課題について講演された。

- ・現地実証試験結果報告 ー中日本高速道路グループ、中部電力、植調協会事務局：

中日本高速道路グループからは、抑草剤を使用したインターチェンジ内での植生管理について、試験結果が報告された。

中部電力からは、地域で異なる雑草植生に対応した管理方法を効率的に選定するため、中部地域各地で実施した植生調査および植生の類似性に着目した解析による分類結果が報告された。植調協会事務局からは、これまで(平成19～22年)緑地管理研究会で報告されたユーザー各社の現地試験の概要及び成果が報告された。



写真 緑地管理研究会の様子